

2003年2月アルゼンチンの経済情勢

2003年3月
在アルゼンチン大使館

1. 概況

民間債権者との債務リスク交渉における金融アドバイザーがようやく選定され、先送りされてきた、サムライ債保有者を含む民間債権者とのリスク交渉開始に向けた動きがあった。懸案であったIMFとの合意が達成されたこともあり、経済は安定した状態が続いている。一方、公共料金の値上げは再び裁判所から執行停止命令が出され、現政権中の値上げ実施は非常に困難な情勢となった。

2. 経済の主な動き

(1) 民間債権者との交渉

19日、経済省は民間債権者との債務リスク交渉における金融アドバイザーとして仏のLazard Freres社を選定した旨を発表した。Lazard Freres社は亜政府の代わりとして直接、債権者と交渉を行うことはないが、具体的な債務リスク計画を策定し、交渉にあたり亜政府を補佐する役割を担う。金融アドバイザーが決まったことで、先延ばしされてきた、サムライ債保有者を含む民間債権者との交渉がようやく始められると見られる。交渉の開始に先立ち、債権者との話し合いを行うため、ニールセン金融庁長官が債権者の集まる各国を訪問しており、2月には独、3月には米、日本、仏、伊等に向かうことになっている。

(2) IMFとの暫定合意

1月に合意されたプログラムの達成状況をチェックするため、23日よりIMFミッションが訪亜し、経済省や中銀と協議を行った。3月3日には、シンIMF西半球局長も訪亜し、ラバーニャ経済相、プラット・ガイ中銀総裁等と会談した。右会談において、シン局長は、亜が1月末時点でプログラムに規定された財政及び金融に関する数値目標を全て達成したことを認め、その旨をIMF理事会に報告することを約束した。

一方、IMFとの合意事項の一つである税制改正（競争法の廃止、輸出還付金の所得税課税対象への組み入れ、ガソリン税の定額課税から定率課税への変更）法案の議会審議はなかなか進まず、未だ議会での可決が得られていない。

(3) 公共料金の値上げ

公共料金の値上げを認める意向の政府は、裁判所によって執行停止命令が出された昨年12月に続き、1月にも、電気及びガス料金を値上げする大統領令を公布した。これに対し、オンブズマンや消費者団体から値上げ差し止めを求める訴えが起こされ、25日、裁判所は右大統領令が政府と公共サービス企業との契約全体を見直すことを規定した緊急経済法に違反するとして、再び執行停止命令を出した。政府は右執行停止命令を不服として、即座に控訴したが、司法の最終判断が下されるまでにはかなりの時間がかかると見られ、

現ドゥアルデ政権中の公共料金値上げは非常に困難となった。

なお、公共料金の値上げ問題も含めて、政府と公共サービス企業との契約再交渉を技術的に補佐するため、17日からIMFと世銀の合同ミッションが訪垂し、電気、ガス、水道、電話、有料道路等の公共サービス企業や経済省等と会談を行った。

3. 経済指標の動向

(1) 金融

為替は1ドル=3.2ペソ前後で、ほぼ横ばいで推移した。1月に100億ドルを下回った外貨準備は、IMF等からのディスバースにより100億ドルを回復した。預金残高は微増傾向にあり、いくつかの銀行が自主的に実施した凍結された定期預金（コラロン）の前倒し返金措置で実際に預金を引き出した預金者は少なかった。ペソ流通量は昨年12月に増加した後、ほぼ横ばいの状態にある。

(2) 税収

2月の税収は46.5億ペソで、対前年同月比で55.1%と大幅な増加が続いている。所得税、輸出課徴金、付加価値税の税収増が著しい。

(3) 産業動向

(イ) 小売（1月）

スーパーマーケット売上高は対前年同月比22.4%の増加、ショッピングセンター売上高は同71.2%の増加となった。売上高の増加は商品価格の上昇によるところが大きいが、ショッピングセンターでは観光客の増加から販売数量の面でも16.4%の増加となった。

(ロ) 建設活動指数（1月）

建設活動指数は、対前月比で4.6%の増加、対前年同月比では37.6%の増加となり、回復傾向が続いている。

(ハ) 工業生産指数（1月）

工業生産指数（EMI）は、対前月比で4.0%の増加、対前年同月比では16.4%の増加となった。工業生産も、少しずつ回復してきている。

(4) 物価

消費者物価指数は対前月比0.6%の上昇、食料品の値上がりが大きくなっている。ドル価の下落傾向を反映して、卸売物価指数は対前月比0.4%の増加に留まり、輸入卸売物価指数は同1.2%の減少となった。

(5) 雇用（1月）

労働省の発表によるブエノスアイレス圏、コルドバ圏、ロサリオ圏の雇用状況をみると、雇用水準は低い水準でほぼ横ばいの状態となっている。

(6) 貿易収支（1月）

1月の貿易収支は、13.3億ドルと大幅な黒字が続いている。輸入は前年同月比6%の減少となった一方、輸出は同17%の増加となった。